

2024 年度

里親養育包括支援機関（フォスタリング機関）事業報告

1. はじめに

今年度から、2 か所のフォスタリング機関を運営することになった。

ふおすたち（立川フォスタリング）は開設 3 年目を迎え、新入職員が加わり体制が変化の中で、初年度に作成した理念に基づく新たな行動指針を策定することとなった。理念への理解の違いが明らかになり、外部スーパーバイザーを交え議論を重ね、「伴走者」「里親子に寄り添う」とは何かを深め、行動指針を完成させた。会議運営も改善されたが、意見の違いもあり、相互理解と歩み寄りの姿勢が求められた。里親からの各スタッフの職務への理解も不十分であったため、実務者連絡会などで説明を重ねている。

今年度から八王子児童相談所のフォスタリング機関の活動が始まり、推進員を中心に里親家庭や学校等への訪問を重ね、信頼関係の構築に努めてきた。広報誌による情報発信も行い、職員の人となり伝える工夫もしてきた。一方、6 月と 7 月に推進員が相次いで退職し、活動に支障が出る危機に直面したが、残ったメンバーが連携し対応し、特に自立支援計画や一時保護児童の支援などは滞りなく実施できた。9 月以降は新たな推進員も加わり、チーム全体で活動を継続している。意見を出し合い、共に実行する体制や、迅速な対応力が「ふおすはっち」の強みであり、こうした姿勢を維持していく意向である。

2. 運営

（1）会議

1) ふおすたち（立川）

年度当初は会議の進行や記録の分担が曖昧だったが、明確化により円滑な運営が可能となり、議題を検討・協議事項に分ける工夫で効率化が進んだ。記録については簡潔で迅速な対応を目指すものの、繁忙時は超過勤務が発生し、時間内に業務を完了させることが課題となっている。勤務体制は年間を通じて安定していたが、来年度は異動や入れ替えが予想されるため、丁寧な引継ぎと里親への説明が求められる。勤務調整では、児童相談所の開所時間に対応できるよう配慮が必要である。チーム連携では、職種を超えた協力が研修や普及啓発に効果を上げ、後半にはスーパーでのポスター掲示など積極的な広報活動も展開した。ケース共有では新たにミーティング内に専用項目を設け、情報共有の強化を図ったが、来年度は事務所の分散勤務により情報伝達の課題が生じる可能性があり、対応策の検討が求められている。

2) ふおすはっち（八王子）

週 1 回のミーティングでは、ケース共有や方針検討を重ね、提案型の議論にも慣れが見られるようになった。議論が紛糾することもあるが、進行役が論点整理を行い、全員が意見を出し合い、里親子にとってより良い選択を模索してきた。記録体制も整備されたが、訪問の増加によりリアルタイムでの記録が難しい場面もあり、今後の課題となっている。

勤務面では土日祝日の対応体制を強化し、安心感の提供や訪問対応が可能となった。後期には訪問の増加に伴い事務所の役割分担も明確化され、法人 PC を共有することで柔軟な対応が図られた。シフト作成や有休取得にも配慮し、急な欠勤にも対応できる体制を構築。チームワーク面では、欠員を補い合いながら業務を遂行し、情報共有ツールを活用することで業務の透明性と連携を強化。お互いを尊重する文化が根づいており、今後も良好な関係を保ちつつ質の高い支援を目指す。

（２）職員研修

今年度ふおすたちは、職員の資質向上を目的として、各職員がアドボカシーや権利擁護など少なくとも一つ以上の研修に参加することを目標とし、参加後は速やかに報告書を提出し、全体ミーティングで内容を共有する体制を整えた。チームへのスーパービジョンについては、昨年度に引き続き二葉乳児院の長田氏に依頼し、チーム運営や個別ケースの検討など幅広い内容で実施することができた。これにより、日々の業務を客観的に振り返る機会となり、職員一人ひとりの視野が広がったと感じている。

一方で、今年度はふおすはっちとして独自に職員向けの研修を実施することができなかったという課題も残った。来年度はこの反省を活かし、フォスミーティングの時間などを活用しながら、計画的かつ継続的に研修を実施していく予定である。また、スーパービジョンについても年度内にバイザーの決定を行い、来年度はよりスムーズにスタートできるよう準備を整えていきたい。

（３）法人内他部署との協力連携

１）ふおすたち（立川）

本体施設である乳児院とは距離がある分、連絡や相談を意識的に言い、小口現金や勤怠管理も丁寧に対応した。年末年始には本院での勤務を交代で行い、乳児院職員としての意識や理解を深めた。乳児院職員への里親制度説明も実施し、フォスタリングへの理解促進につながった。次年度は里親の養育体験発表会を企画予定。八王子フォスタリングとは下半期に２回の合同会議を実施し、次年度は年間計画に組み込んで定期開催を目指す。

２）ふおすはっち（八王子）

事務職員とは日常的に連絡を取り合い、業務確認、ICT 関連、会計など多岐にわたるサポートを受けた。特に啓発活動では、職員にない視点で意見をもらい、事務長を中心に相談する場面も多く見られた。勤怠書類や小口現金出納簿の提出では遅れが出てしまい、後半は期日を設けて意識改善を図ったものの、業務が立て込むと遅れることがあり、来年度は提出管理の徹底が課題となる。研修では乳児院から場所の提供や実習の受け入れなど継続的な協力を受けた。また、年末年始の院での勤務により、乳児院を知らなかった職員が現場に入り、生活の様子や児童養護施設との違いを学ぶ貴重な機会となった。今後も相互協力体制を強化していきたい。立川フォスタリングとは日常的な情報共有を行い、疑問点はお互いに確認し合う関係を築いている。さらに合同ミーティングを年２回実施し、次年度の年間計画についても協議を進めた。

（４）関係機関（立川児相、里親会等）との連携・協力について

１）ふおすたち（立川）

児童相談所では、全メンバーが所内に席を持ち、毎朝の情報共有や月１回の所内会議を実施した。ケース検討会議は月１回を目指すも日程調整が課題となった。一時保護への関与は原則中止となり、必要時のみ対応した。子ども家庭センターとは年度初めに訪問し、活動方針を共有したが、熱意に差があり、受け身な対応への工夫が課題。特に養育体験発表会は改善提案が必要とされた。施設の里親支援専門相談員とは月１回の連絡会と統括との半期ごとの面談を実施し、施設実習や研修での連携を確認。サロンへの参加も行い支援に貢献している。さくら支部とは隔月の役員会やサロン・学習会を共催し、親睦と理解促進に繋がった。

２）ふおすはっち（八王子）

児童相談所では、１０月以降、フォスタリングがケース進行に参画し、情報共有を強化。月１回の所内連絡会でケースの進捗状況を報告し、連絡調整を行った。共働き里親の対応として、メールを使った家庭訪問の日程調整を試み、順調に進めた。また、広報物は児相の確認後に発送し、イレギュラーな対応についても福祉司と連携して柔軟に対応。急な休暇時には協力して訪問調整を行い、円滑に業務を進めた。東京都とは連絡会に参加し、月次報告を提出して期限を守った。みどり支部とは連携し、協力できる活動を模索して実施。

子ども家庭支援センターでは、養育体験発表会を実施し、特に町田市のパネルディスカッションが好評だった。後半期には普及啓発活動で各市のイベントに参加し、“さとぺん”の着ぐるみ登場などで認知度を向上。しかし、他の分野での連携は難航しており、今後さらに協力できる方法を模索していきたい。

３．個別の事業の実施について

（１）統括責任者

１）ふおすたち（立川）

八王子フォスタリングとの合同会議は後期に２回実施し、次年度の連携についても話し合った。水曜日のミーティングは職種ごとに訪問等を優先しがちだが、チーム全体で情報共有を最優先事項とし、有効な会議にすることが目標である。下半期は養育体験発表会や普及啓発活動など、職種を超えて協力して実施し、行動指針も策定した。勤務変更や有給休暇などの手順を標準化し、研修参加後は報告書を作成し共有。研修参加に個人差があったため、次年度は計画的に研修参加を検討する。

フォスタリング職員への理解や里親への対応については進展があり、情報共有を重視したが、連携の不安が残る。来年度は、立川、八王子フォスタリング合同会議を定期的の実施し、全員でのミーティングを重要視。プロ意識を持ち業務を全うし、効率的な働き方と職種間の協力連携を進めることが方針となる。

２）ふおすはっち（八王子）

毎週水曜日のミーティングでメンバーが１週間の動きを報告し、システムのスケジュールを活用して進行状況を共有するようになり、情報の把握が容易になった。この取り組みにより、各メンバーが自発的に報告・相談を行い、円滑な連携が進んだが、各自が担当しているケースの進行状況の共有は意識的に行う必要がある。各職員に業務に責任感を持って取り組む姿勢が見られ、推進員不在でその業務をカバーしていたこともあり、任せきりになっ

た部分については反省し、来年度は早めの提案と年間計画の策定を進める。

また、児相側から進行管理について指摘を受けたため、次年度は早期の対応を心がける。会議では逐語録を残し、全員で情報共有できるように工夫した。年間を通じて他機関との情報収集や共有を行い、来年度はミーティングでの説明を強化したい。採用面接では効率的な日程調整を試み、チーム内では感謝や労いの言葉を掛け合い、良い雰囲気作りを心掛けた。全員が敬意を持って接しており、チームの一体感が業務に好影響を与えている。

（２）里親制度等普及促進・リクルート事業（里親リクルーター、区市町村連携コーディネーター）

１）ふおすたち（立川）

地域での里親制度の認知度を高めるため、様々な普及啓発活動を実施した。里親に関する認知度調査をイベントで行い、地域特性を生かした啓発が課題となった。SNS やホームページを通じて情報発信し、出前講座では里親制度の理解を深める取り組みを行った。また、イベント開催やグッズ制作、キャラクターとのコラボを通じて里親制度の認知度向上に努めた。特に、立川ダイスの試合でのブース出展やステージパフォーマンスなど、新たな形での啓発活動を実施した。

さらに、養育体験発表会を実施し、里親家庭の理解促進を図った。地域住民との連携を強化し、施設職員向けの体験発表会やバザーに参加。今後は市町村との協力を深め、里親の必要性を意識させる活動を継続する予定だ。来年度は、効率的な啓発活動を目指し、戦略的に普及啓発を進めるための施策を立てる。

◆年間活動

広報活動：出前講座 10 回 参加者 356 人 ファミリサポート研修会 11 回 73 人
イベント 15 回

２）ふおすはっち（八王子）

里親制度に関する普及啓発活動として、オンラインおよび対面で「制度説明会」を実施した。商業施設で 5 件の制度説明会を行い、個別説明会の準備が遅れたものの、今後はオンラインと対面両方に対応し、日時調整も行っていく予定。チラシ配布や市民団体との協力で里親制度への認知度向上を図り、市町村ごとの開拓企画も検討した。

また、関係機関に対して挨拶回りを行い、フォスタリングが新たに委託されたことを周知。今後は里親制度の理解を深めるため、リーフレット作成を検討中。普及啓発イベントでは、商業施設や市民イベントに参加し、グッズ配布や個別相談を実施。さらに、日本工学院の学生にポスターデザインを依頼し、里親制度をアピールするポスターを選定した。

来年度は、地域スポーツチームと連携したイベントや、アクセスしやすい会場での制度説明会を行い、効果的に啓発活動を進める予定だ。

◆年間活動

広報活動：広報宣伝 11 回 グッズ 3775 個配布 関係機関 5 回 関係機関訪問 20 か所
制度説明会 13 回 参加者 25 人 養育体験発表会 3 回 参加者 180 人

（３）里親研修・トレーニング等事業（里親トレーナー）

１）ふおすたち（立川）

会場は昭島ぱれっとや双葉園を通じて昭島のさくらホールを利用し、更新時研修の参加人数が増えたため、次年度は参加者の減少が予想されるものの、現状の会場で対応する予定です。講師の都合で順序変更があったものの、外部講師の時間枠を１時間に統一し、スムーズに進行できた。権利擁護に関するディスカッションは、受講者の関心が高く、時間延長を希望する声も多かったです。下半期に予定していた企画は実施できなかった。

令和７年度から、東京都の里親登録有効期間が５年に変更され、更新期限案内の葉書送付は停止します。前倒しで研修を受けた里親には５年間の登録が認められ、研修受講は任意ですが、里親が興味を持てる研修を企画することが求められる。

２）ふおすはっち（八王子）

今年度の研修は、体調不良による中止はあったが、申込者ゼロの研修はなく、多くの研修で想定以上の参加があり会場変更を余儀なくされることもあった。申込方法はGoogleフォームが主流で管理も容易だった。調整員との連携も次第に円滑になり、申し込み確認がスムーズに進んだ。研修専用Gmailを導入し、受講者との連絡が容易になった。八王子・町田両市で会場確保を行ったが、町田市の分離に伴い、来年度は日野市での開催も視野に入れる。本院の協力により施設見学や実習が円滑に進んだ一方、年度末には施設側の受け入れが困難となり、対応方法の検討が必要となった。推進員の欠員で未委託家庭向け研修が実施できず、来年度の課題となった。保育は基本的に委託業者へ依頼し、職員負担軽減を図る。講師選定には苦労があったが、謝礼見直しにより継続依頼が可能となった。来年度は講師選定や内容決定を早期に行う方針である。

◆研修開催実績

	立川	八王子
認定前研修	５回	５回
更新時研修	５回	５回
登録後研修	２回	３回
受託後研修	２回	２回
乳児委託研修	３回	５回
専門養育家庭更新時研修	２回	１回
障害児モデル研修（合同開催）	１回	１回

（４）里親委託推進等事業（里親等委託調整員）

１）ふおすたち（立川）

インテークの精度向上を図り、里親志望者が自身の意思を深く見つめながら前進できるよう支援した。実際のケースでは、登録後に想定外の一面が判明し、面接を重ねる必要が生じた。また、真実告知への抵抗感などからも、志望者が本心を見せにくいことを踏まえ、違和感や疑問をその都度確認する重要性を再認識した。インテーク件数は計７件で、そのうち１件が認定前研修へ進んでいる。更新手続きでは、全体での呼びかけにより期限内実施が可能となり、来年度の５年更新制度導入に向け、注意深い対応が求められる。調整面では主に

インテークと研修に関する情報共有を丁寧に行い、詳細な記録は児相職員とも共有可能な形で保存している。次年度は記録に表れにくい里親の特性も積極的に伝えていく方針である。

◆年間活動

インテーク数 合計：7件 実家庭数5件

新規登録 合計：6件

養育家庭：4件 内2件：養子縁組里親を主登録とする二重登録、
内1件：養育家庭(親族)

養子縁組家庭：2件

2) ふおすはっち(八王子)

各児童相談所(児相)内で異なるシステムや支援手法を一つ一つ確認し、理解を深めながら対応を進めた。初年度の「里親委託等推進委員会」の企画・運営では、理解不足に苦しみつつも、立川フォスタリングでの経験とチームの協力により円滑に実施できた。また、管轄市ごとに異なる業務に対応しつつ、連携強化のため「一時保護ファイル」や「電話版ボード」を作成し、情報の可視化と共有を推進した。さらに、新規登録から更新までの一連の業務を担い、制度説明会との連携による質の向上や、多数の委託調整、訪問者の選定も順調に行った。今後は役割分担の明確化と協力体制の強化が課題である。

◆年間活動

新規里親認定登録件数

養育家庭：1家庭 専門養育家庭：1家庭 親族里親：2家庭 養子縁組家庭：4家庭

登録更新手続

養育家庭：40家庭 専門養育家庭：1家庭 養子縁組里親：11家庭

マッチング支援

養育家庭：候補児童数19、選定家庭数17、委託数12

養子縁組家庭：候補児童数30、選定家庭数4、委託数2

自立支援計画書の作成

養育家庭：71家庭 89人

(5) 里親訪問等支援事業(里親委託等推進員)

1) ふおすたっち(立川)

里親相互交流の充実を目指し、養子縁組・養育家庭サロンを年2回ずつ実施した。来年度は養子縁組サロンを3回に増やし、八王子との合同開催も計画している。アセスメント面では、丁寧な関係構築と情報共有を通じて支援に繋げており、未委託家庭への訪問や必要に応じたケース会議、訪問対応など柔軟に対応している。一方で、担当制の偏りにより多角的視点が不足する課題も見られ、今後は児相との連携強化やケース共有に努める。推進員間の連携ではミーティングや口頭でのやり取りを通じた共有が行われたが、業務増加により引継ぎノートの活用に課題が残った。個人情報集約については、情報の取捨選択を進めつつ、今後の管理方法を引き続き検討していく必要がある。

◆年間活動

家庭訪問 88回

電話相談等 668 回

2) ふおすはっち (八王子)

6 月と 7 月に推進員が退職し、残った 6 名で業務を分担して対応した。9 月と 1 月に新たに 2 名が入職し体制は整ったが、業務に慣れるまで家庭訪問に手が回らなかった。学校訪問は 11 月から調整を開始し、年度末までに全校訪問を目指した。様子伺い訪問やカウンセリング訪問は、主に児相同行や交流中の家庭が対象となった。未委託家庭訪問は年度末に向けて急ぎ対応中である。サロンは年間を通して 5 回開催し、親子が楽しめる内容を企画したが、会場設定や集客に課題も見られた。養育体験は計画通りに実施し、個別ニーズにも対応した。障害児委託推進では立川と合同で研修を行ったが参加者は少数で、来年度は回数を増やす予定。育児家事援助では業務の把握不足から対応に遅れが出たが、管理ファイル導入で改善を図った。

◆年間活動

里親からの相談等 152 回

育児家事援助者派遣 利用実績 54 回

レスパイトケア 延 34 家庭 77 日

親子再統合に向けた面会交流 28 回

(6) 養育家庭等自立支援強化事業(自立支援相談員)

1) ふおすたっち (立川)

関係機関との協働を進め、立川市主導の子ども若者自立支援ネットワークに加入し、勉強会や連絡会へ参加した。また、多摩ユースサロンや NPO 法人主催のセミナー・イベントにも参加し、OBOG や中高生の支援を強化した。関係者会議も必要に応じて実施し、措置解除等の調整を行った。里親家庭には「ふおすたっちだより」を通じて多様な支援プログラム情報を提供し、郵送体制の改善により案内の幅を広げた。進学や就労支援では、児童の登校・生活状況に応じた学校訪問や相談機関への連携を行い、進路支援や経済面の説明も実施。元里子に対しても、困り感への対応、通院・手続き支援、関係機関との連携による継続的な支援を行い、切れ目ないサポート体制の構築に努めた。

◆実施状況

里子への情報提供・相談援助 対象児童 35 名/相談支援 1042 回

アフターケア 対象者数 11 名/相談支援 1914 回

2) ふおすはっち (八王子)

他の管轄と比べて中高生の委託数や委託解除後のケアリーバー支援が多く、優先順位を見極めて福祉司の訪問に同行し、早期の関係構築とニーズ把握に努めた。訪問が困難なケースは他職種との情報共有で理解を深めた。外部団体との連携にも注力し、立川フォスタリングと中高生向け自立支援サロンを開催。高校進学希望者には見学同行など積極支援を行った。委託中や解除直前の児童への支援では、自立支援相談員が主に対応し、関係機関と信頼関係を構築。ケアリーバー支援では LINE を活用して連絡を取りやすくし、職場訪問や家庭訪問も安全に配慮して実施。また、本人の希望に応じた実親との交流支援も行った。今後支援対象の増加が見込まれるため、業務整理や他職との連携体制の強化が課題となる。

◆実施状況

家庭訪問 69回 連絡等 236回
アフターケア 家庭訪問 66回 連絡等 3,688回

4. おわりに

来年度は、立川・八王子のフォスタリング合同会議を、定期的に開催する。それぞれの全体ミーティングは週1回実施し、情報共有のための重要な機会と位置づけ、原則として全員参加とする。職員は行動指針に基づき、プロ意識を持って各自の業務を遂行する。効率的な働き方を推進するとともに、職種を越えた連携と協力を重視する。業務が滞りなく進むよう適切にマネジメントを行い、各職員が自分の強みを発揮できるような職場環境の整備にも努める。取り組み目標として、各業務について最低週1回は進捗を共有・確認し、日々のコミュニケーションを通じて感謝や労いの気持ちを伝え合い、良好な関係を築くことを目指す。これらにより、フォスタリング機関の取組みをより充実することが課題となる。

以上